

組織登録からみた広島県における甲状腺腫瘍の実態

福原 敏行* 西 信雄* 有田 健一* 鎌田 七男* 安井 弥*

1. はじめに

広島県腫瘍登録事業（いわゆる組織登録）は広島県医師会を実施主体として昭和48年（1973年）から実施され、地域がん登録に必要な病理診断名の把握に不可欠な存在となっている。なお、本事業は平成17年（2005年）4月の個人情報保護法の全面施行に併せて、広島県が実施主体である広島県地域がん登録事業と一体化し、運用されている。

今回我々は、広島県の甲状腺腫瘍の実態について、広島県腫瘍登録のデータをもとに解析したので結果を報告する。

2. 対象と方法

広島県腫瘍登録は広島県内の医療機関60施設の協力を得て、良性腫瘍・悪性腫瘍（血液疾患も含む）の病理組織に関する資料を収集し、国際疾病分類腫瘍学第3版をもとに部位と組

織診断をコード化している。

今回、我々は甲状腺腫瘍の登録例について、その登録数・登録率を検討したが、広島県腫瘍登録は一般の地域がん登録とは異なるため、届出された腫瘍の集計においては、「登録数」、「登録率（人口10万対）」と表現する。

3. 結果と考察

1) 新規に登録された甲状腺腫瘍登録数の年次推移（図1）

1973年から2002年間に新規に登録された甲状腺腫瘍は総数6,954例で、良性腫瘍が2,400例、悪性腫瘍が4,554例であった。就中、悪性腫瘍の登録数は男女とも明らかな増加傾向を示すが、良性腫瘍の登録数はほぼ横這いに推移しており、近年はむしろ漸減傾向にあった。また、男女比は良性腫瘍が男：女=1：7.2、悪性腫瘍が男：女=1：4.2であった。

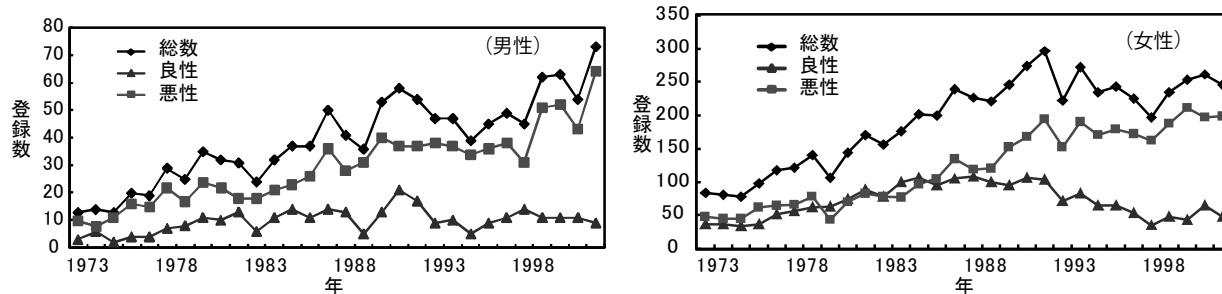


図1 新規に登録された甲状腺腫瘍登録数の年次推移

*広島県腫瘍登録実務委員会

〒733-8540 広島市西区観音本町1丁目1-1

2) 年齢階級別にみた甲状腺腫瘍の登録数 (図2)

登録数を年齢階級別にみると、悪性腫瘍は良性腫瘍に比して男女とも高齢に傾いた分布を示し、良性腫瘍のピークは40才代、悪性腫瘍のピークは50才代であった。また、良性腫瘍は男女とも40才代を中心として対称的な広がりを示すが、悪性腫瘍は男性が女性に比してより高齢に傾いた分布を示し、そのピークは男性が60才代、女性が50才代であった。

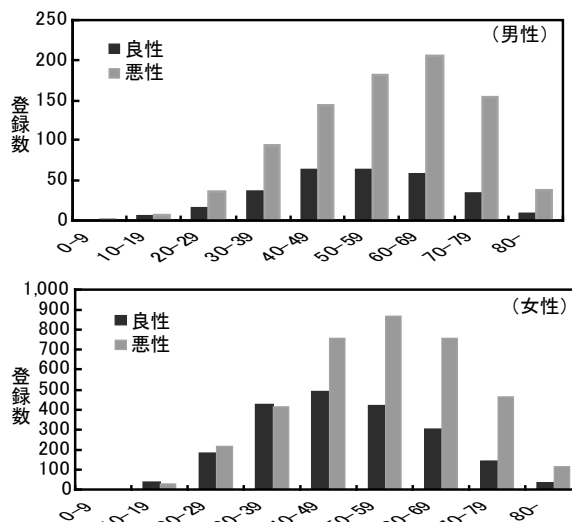


図2 年齢階級別にみた甲状腺腫瘍の登録数

3) 甲状腺腫瘍の組織型別登録数 (割合) (図3)

良性腫瘍はほとんどが上皮性であり、非上皮性腫瘍の占める割合はわずか0.2%であった。また、良性上皮性腫瘍はいずれも濾胞腺腫およびその特殊型であり、性比は男：女=1：7.2であった。

一方、悪性腫瘍の組織型別登録数をみると、男女とも乳頭癌がその大半を占め、全体として

は全悪性腫瘍の87.2%が乳頭癌に相当した。また、濾胞癌は全悪性腫瘍の8.0%であり、以下、悪性リンパ腫1.8%、未分化癌1.35%、髓様癌1.0%の順であった。また、組織型別の男女比をみると、乳頭癌は男：女=1：4.5となり、各組織型中、女性の占める割合が最も高かった。

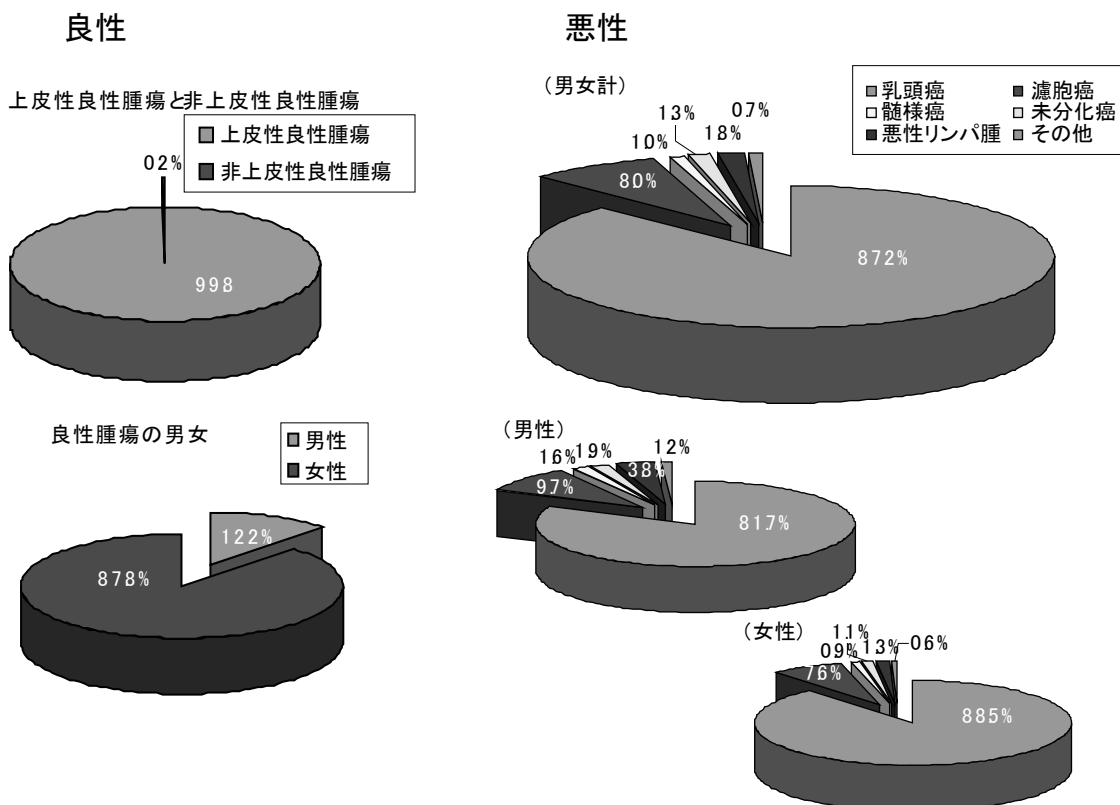


図3 甲状腺腫瘍の組織型別登録数(割合)

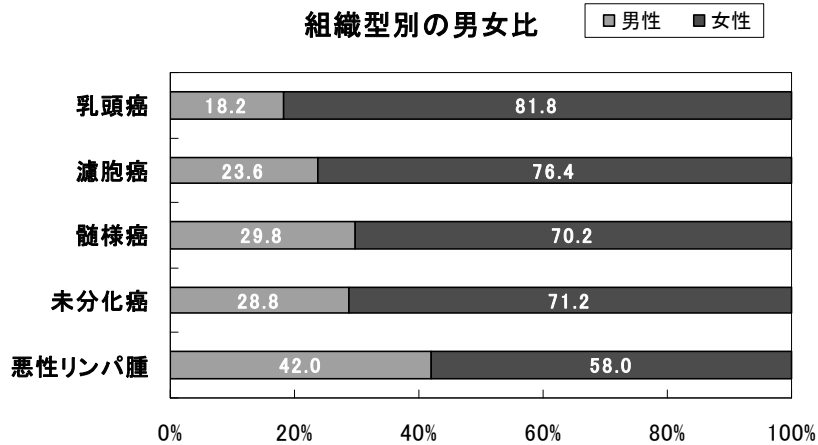


図3 続き

また、乳頭癌以外の組織型別男女比は濾胞癌が 1 : 3.2、未分化癌が 1 : 2.5、髄様癌が 1 : 2.4、悪性リンパ腫が 1 : 1.4 であった。

4) 甲状腺腫瘍の組織型別登録数および登録率の年次推移 (図 4)

良性腫瘍は殆んどが濾胞腺腫であり、組織型別の差異を指摘できないが、登録数、登録率はほぼ横這い、ないし漸減的な推移であった。一方、悪性腫瘍では、乳頭癌の登録数、登録率が明らかな経年的増加を示し、悪性腫瘍の年次推移と強く相関していた。しかし、濾胞癌は登録数、登録率とも横這い、ないし減少の傾向を示し、乳頭癌との比率が懸隔してきている。ちなみに、乳頭癌の増加と濾胞癌の減少は世界的な傾向でもあり、食事的なヨード補足の改善や、濾胞型乳頭癌の認知など組織学的診断基準の変化が背景因子に挙げられている。本邦では後者の影響がより大であり、本結果もこれを反映していると思われる。

5) 年齢階級別にみた甲状腺腫瘍の組織型別登録数 (割合) (図 5)

悪性腫瘍の年齢階級別、組織型別登録数をみると、乳頭癌、濾胞癌が男女とも 40 才代・60 才代を中心とした拡がりを見せているのに対し、

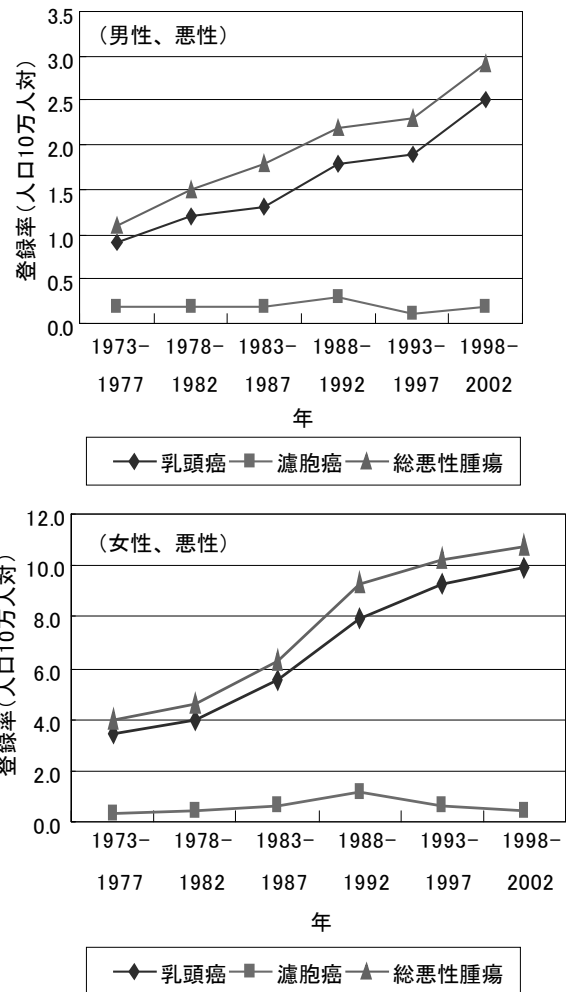


図4 甲状腺腫瘍の組織型別登録数および登録率の年次推移

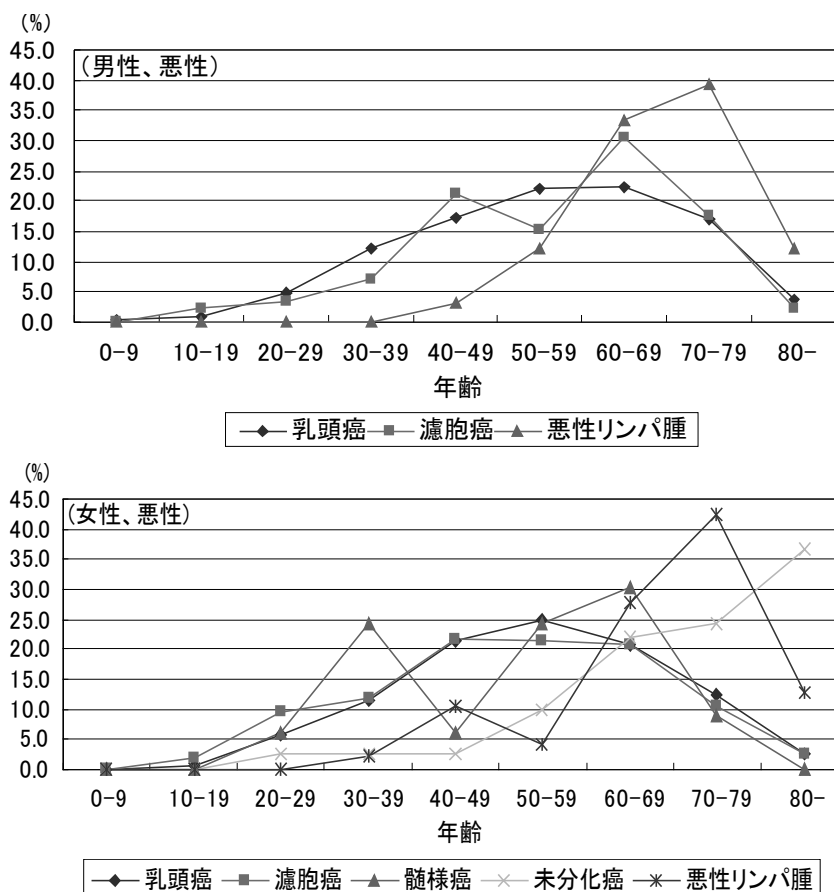


図5 年齢階級別にみた甲状腺腫瘍の組織型別登録数(割合)

未分化癌と悪性リンパ腫はより高齢に傾いた分布を示し、未分化癌は80才代以上、悪性リンパ腫は70才代の年齢階級にピークがあった。なお、20才未満の悪性腫瘍発生数は乳頭癌が男性7例、女性23例の計30例（全乳頭癌の0.8%）、濾胞癌が男性2例、女性5例の計7例（全濾胞癌の2%）で、他の組織型では20才未満の症例は存在しなかった

4. 結語

広島県腫瘍登録、1973年から2002年の甲状腺腫瘍6,954例（良性腫瘍2,400例、悪性腫瘍

4,554例）について解析を行った。その結果、悪性腫瘍の大半は乳頭癌が占めており（87.2%）、各組織型中、女性の占める割合も乳頭癌が最も高かった（男：女=1:4.5）。その他の悪性腫瘍の組織型別頻度、男女比は濾胞癌8.0%、1:3.2、悪性リンパ腫1.8%、1:1.4、未分化癌1.35%、1:2.5、髓様癌1.0%、1:2.4で、未分化癌、悪性リンパ腫は70才以上の高齢者に優位な発生を示していた。また、悪性腫瘍の年次推移から、乳頭癌の経年的な増加傾向が指摘され、濾胞癌との比率が懸隔していることが明らかとなった。